Ｈ２８　人権集会　講話

平成28年4月26日(火)

みなさん、おはようございます。

　今週は、人権週間ということで話をします。

　『人権』とは、何でしょうか。（分からないときは、国語の辞書を引くとよいと思います。）広辞苑という辞書の中には、「人間が人間として生まれながらに持っている権利」と定義しています。もっと簡単に言うと、人間が人間らしく生きていく権利だと思います。

人権の一番の基本は、命だと思います。人間の命より大切なものはありません。だから、皆さんも命を無駄にするようなことをしてはいけません。ましてや、「いじめ」等によって、命を失うようなことがあってはなりません。よろしくお願いします。

　もう少し身近な話をしたいと思います。

　井出教頭先生が、先生方のために、毎週の行事や出張が書かれた

Ｗｅｅｋｌｙという週行事予定表を出してくれます。その中に、教頭先生の思いや願が書かれたコラムがあります。その文章を紹介します。

　清掃中に教育委員会から電話がかかってきた。あいにく、職員室の前の方で掃除機をかけていた。しかし、電話で対応していると、掃除機の音がやんだ。「早く清掃が終わり、良かった」と思いながら電話の対応を続けた。受話器を置くと、清掃をしていた女子生徒と目が合った。「にこっ」と笑って掃除機のスイッチをいれ、清掃を続けてくれた。教頭先生は、思わず、「ありがりう」の言葉が出た。

この素晴らしい行為から、次の言葉を思い出した。

　『行為の意味』という　宮沢　章二　さんの詩です。その一部を紹介します。

　　確かに　こころ　は誰にも見えな

いけれど　こころづかい　は見えるのだ

胸の中の　思い　は見えない

けれど　思いやり　は誰にでも見える

それは人に対する積極的な行為だから

　教頭先生の電話のときに、掃除機のスイッチをきった生徒の行為は、こころが、こころづかいとなって現れたものだと思います。このこころが、人権尊重の精神の基盤だと思います。大幡中の生徒たちの中にこんな素晴らしい生徒がいることを誇りに思います。

ありがとう。